

# 2017年秋のビーチクリーニングアップ

清原 久和（東船大 N16）

9月9日（土）、厳しい残暑の中、恒例のJEAN主催の鶴沼海岸“秋のビーチクリーニングアップ活動”が開催されました。秋の活動は、ワシントンDCに本部を置く世界的自然環境保護団体“Ocean Conservancy”の主催するInternational Coastal Cleanup (I.C.C.)への参加です。毎年この時期には、鶴沼海岸のみならず、日本・世界各地の海岸で一斉に、世界中のボランティア団体によるクリーニングアップ活動が行われます。

今回の鶴沼海岸での活動参加者は全体で83名、海洋会からは11名の会員が参加しました。毎年のことながら、この時期は学生達にとっては試験の時期で、残念ながら、4月のクリーニングアップの回収作業で終了し、回収ゴミの分類、集計作業に入りました。集計結果は次のとおりでした。

可燃物：1袋、0.5kg（19袋、70.1KG）、

不燃物：1袋、1KG（29袋、55.9KG）

（ ）内数字は本年4月時の実績

今回のように、ゴミの量が少なかったことは、鶴沼海岸クリーニングアップ活動の長い歴史の中でも初めてのことです。

JEANによれば、日本国民のゴミ問題に対する問題意識の向上により、海岸でのゴミのポイ捨てが無くなり、さらに、ゴミがあれば自動的に回収するなどの行動も珍しくはなくなり、海岸ゴミは減少傾向にある。このことが、まさしくビーチクリーニング活動による啓蒙の成果といえるでしょう。さらに、9月初めに日本の東海岸沖をゆっくりと北上していった台風が、鶴沼海岸のゴミをすっかりさらっていったことが今回のゴミが、極端に少ないことの原因であろうと指摘しています。

ブ活動には10名も参加してくれた海洋大学生の参加はゼロでした。おそらく、他のグループに属する大学生たちにとっても事情は同じだったのではないのでしょうか。開催時期を見直してもらうことも必要かもしれません。今後の課題です。

開会式では、JEANの小島さんより最近の環境問題の情勢について報告がありました。マイクロプラスチック問題などが深刻化するなかで、今や海洋ゴミ問題は世界の経済問題ととらえられ、今年1月にスイスで開催されたダボス会議においても、重要テーマの一つとして取り上げられたことが報告されました。

その後、ゴミ回収作業が開始されましたが、今回は鶴沼海岸のゴミが極端に少なく、わずか15

しかし、台風により吹き飛ばされ、流されていった鶴沼海岸のゴミは、今頃どこにあるのでしょうか……。東京湾を出た後、黒潮に流されて、どこか他の海岸に流れ着いたり。あるいは、太平洋を西に流されていたり……。海岸ゴミの問題は誠に複雑です。

今回たまたまゴミが少なかったからといって、ここで活動を止めたのでは元の本阿弥、またゴミが散乱する鶴沼海岸に戻りするのではないのでしょうか。きれいな海と海岸を守っていくためにも、これからも地道で息の長い活動を続けていきましょう。

次の活動は、来年の4月の予定です。日程詳細が決まりましたらお知らせ致します。なお今回のI.C.C.に参加した日本各地での集計結果はJEANの手で取り纏められ、ワシントンDCの本部へ報告されることになっています。



**参加者**

阿部 玲子（海洋会本部）、神谷洋一郎、北沢 昌永、清原 久和、杉野 忠夫、  
竹橋 由進、立石 健三、二宮 弘、林 作治、早津 義彦、山本 訓三  
（以上 11 名）